

解説「わかりやすいXML / EDI」

第3回 XML / EDIの導入状況は

1. 国内産業界の動き

日本国内の産業界でもXML / EDIを導入しようとする動きが活発化しています。特に、グローバルな競争環境にさらされている業界、海外との取引の多い業界などが真剣にXML / EDIの導入に取り組んでいます。

ここでは、そのなかで代表的な業界のXML / EDIへの取組みについて紹介します。

2. 電子機器・電子部品業界の取組み

(社)電子情報技術産業協会(JEITA)では、電子機器・電子部品業界のXML / EDI標準の開発を行い、2003年12月に新標準「ECALGA」として公開しました。その後、半年に1回の改良が行われています。(図-1参照)

インターネット技術の有効活用、従来型EDIでは対応できなかったビジネスプロセスも含めて企業間ビジネスプロセス全体の標準制定、国際発言力の拡大、などのために従来のEDI標準「EIAJ」を新標準に全面的に移行させるとともに、納入仕様書交換プロセス、倉庫事業者預託プロセスなどのコラボレイティブ型プロセスのEDI標

準を順次追加しています。このため、従来のEIAJ標準のメンテナンスは中止しています。

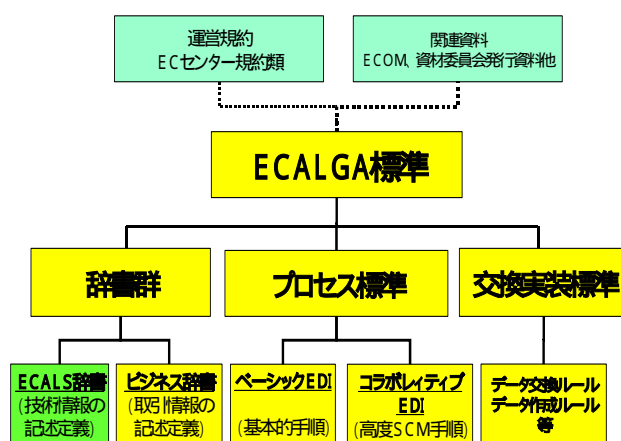
ECALGA標準のなかで物流に深く関わるものとして、倉庫事業者預託プロセス標準(JEITA-VM1)が制定されました。これは、倉庫事業者部品メーカーの在庫を預託し、セットメーカーの求めに応じて倉庫事業者から出荷を行うもので、多様化し、急速に変化する市場の需要、最終消費者の嗜好に適時に対応するため、物品の即時調達・納入をできるようにするものです。

セットメーカー・部品メーカー間でECALGAの導入が進んでおり、また、物流事業者も参加してJEITA-VM1の導入も進められています。

ECALGAでは、メッセージサービス、メッセージ交換協定などはe bXML仕様に準拠して開発されています。ただし、コアコンポーネントおよびXML / EDIメッセージについては、e bXML標準の当該部分が未完であったこと、EIAJ標準との互換性を考慮したこと、などの理由からJEITA独自の仕様となっています。

また、レジストリおよびレポジトリ(R&R)の設置はしておらず、ECALGA標準などの提供はCD-ROM配布およびホームページからのダウンロードで行っています。

図-1 ECALGA標準の体系



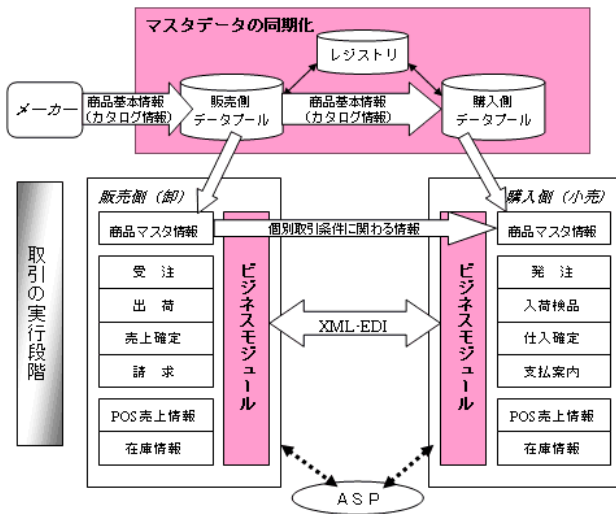
(出典) JEITAホームページ

3. 流通業界の取組み

(財)流通システム開発センター(DSRI)では、経済産業省から委託を受けて2003年度から次世代の流通EDIの主流となると考えられるXML / EDIを前提として、流通サプライチェーンの全体最適化を実現するプラットフォームとなる情報基盤を構築することを目的として「流通サプライチェーン全体最適化促進事業」を実施しています。(図-2参照)

当事業の内容は、標準的なビジネスプロセスモデル(取引業務手順)の策定、流通業界標準

図 - 2 流通SCM共通プラットフォームの概念



(出典) D S R I ホームページ

ビジネスモジュール(データ交換ソフトウェア)の開発及び実証実験、商品マスターデータの同期化仕様の策定および実証実験、XML/EDIメッセージの開発、流通レジストリおよびレポジトリ(R&R)の開発、となっています。XML/EDIメッセージは、従来のEDI標準「JEDICOS」との互換性を考慮して作成しています。2004年度には、イオン(株)とその取引先の卸4社、メーカ3社との間で標準ビジネスモジュールの実証実験が行われました。2005年度には、商品マスターデータの同期化の実証実験が行われる予定です。

流通XML/EDIでは、メッセージサービス、メッセージ交換協定などはe bXML仕様に準拠して開発されています。ただし、コアコンポーネントおよびXML/EDIメッセージについては、e bXML標準の当該部分が未完であったこと、JEDICOS標準との互換性を考慮したこと、などの理由からDSRI独自の仕様となっています。

4. 石油化学業界の取組み

石油化学工業協会(JPCA)では、2001年に従来のEDI標準「JPCA-BP」のXML/EDI版を公表しました。その後、グローバルな電子商取引の環境に対応させるため、化学業界の次世代EDI標準として米国CIDX¹が提唱するXML標準「Chem eStandards」の導入を決め、2002年にその利用指針として石油化学業界XML/EDI標準「CEDI」を作成し、2004年に実用化を開始しています。従来のJPCA-BPも引き続きメンテナンスを続けています。CEDIはJPCA-BPより幅広いビジネスプロセスを対象としています。(図-3参照)

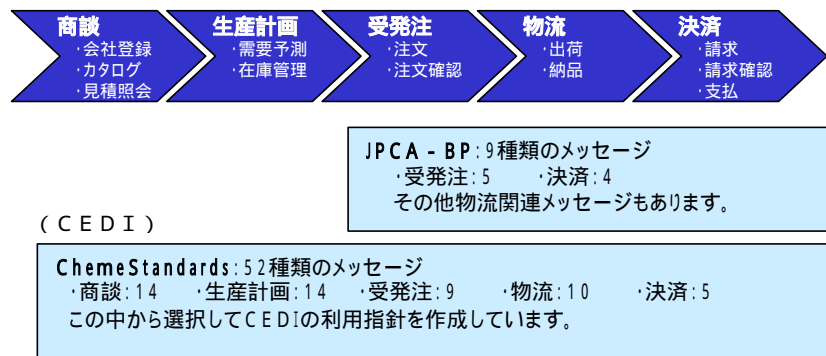
CEDIのメッセージサービス部分は、ロゼッタネットのRNIF²に準拠した形になっており、トランザクション・セット(メッセージ)はCIDXで定めたものとなっています。

(武山 一史)

¹ The Chemical Industry Data Exchange: 化学会社とその取引先との間の電子商取引およびネットワークセキュリティを改善することを目的とするグローバルな化学業界標準化団体で、米国に本部を置いています。

² RosettaNet Implementation Framework

図 - 3 石油化学業界のEDI標準



(出典) CEDIフォーラム資料を加工